

申請者 (ふりがな)	村野 良太 (むらの りょうた)
所属・資格 (※学生の場合は課程・学年を記載)	人間科学研究科博士後期課程 2 年
発表年月 または事業開催年月	2021 年 5 月
発表学会・大会 または事業名・開催場所	日本人間工学会第 62 回大会
発表者 (※学会発表の場合のみ記載、共同発表者の氏名も記載すること)	村野 良太, 友野 貴之, 佐藤 健, 松山 智佳, 市川 寛子, 豊田 真実, 加藤 麻樹
発表題目 (※学会発表の場合のみ記載)	靴底に歩行補助を目的とした加工を施した婦人靴の着用が歩行姿勢に与える影響
<p>発表の概要と成果 (抄録を公開している URL がある場合、「概要・成果」を記載した上で、URL を末尾に記してください。また、抄録 PDF は別途ご提出ください。なお、抄録 PDF は Web 上には公開されません。)</p> <p><b>はじめに:</b> 職場で着用される婦人靴は一般的に外見が重視され, “歩きやすさ” については優先順位が低くなる傾向にある。歩きやすさの優先順位が低い靴を着用し続けることで足部の疲労や痛みを引き起こす恐れがある。見かけを損なわず, かつ歩きやすさを向上させ, 外見と歩行補助機能を両立させるといったコンセプトのもと <i>la verita</i> と呼ばれるパンプスが開発された。 <i>la verita</i> は一般的なパンプスと比較し, 靴底に歩行を補助する機能として, つま先側に 3 本の棒状のゴム (以下, アシストブルーバー) が施されている。本研究は <i>la verita</i> と一般的なパンプスとを着用させた際の歩行姿勢を評価し, アシストブルーバーの歩行補助効果について明らかにすることを目的とした。</p> <p><b>方法:</b> 実験参加者は日頃からパンプスを着用する女性 102 名 (45.3±14.1 歳) とした。課題動作は自然歩行とした。歩行路は 10m とし, 屋内施設で実施した。着用する靴の条件は <i>la verita</i> と統制用のパンプスとした。なお, 統制用のパンプスは <i>la verita</i> と同様の形状をし, アシストブルーバーが施されていないものとした。各条件について 1 試行ずつ実施した。</p> <p><b>結果:</b> 統制靴条件と比較し, <i>la verita</i> 条件では下部体幹の上下動揺量が有意に大きいことがわかった。また, 有意な差は認められなかったが, 上部体幹の上下動揺量および, 前額面軌跡長と矢状面軌跡長といった上半身の上下方向に関連する動きが大きかった。また, 統制靴条件と比較し, <i>la verita</i> 条件では歩行周期時間は短く, 着地時の衝撃 (左) は大きかった。</p> <p><b>考察:</b> <i>la verita</i> は靴底に歩行を補助する加工がされている。このアシストブルーバーは歩行時の “踏切の良さ” の実現を期待して開発されたものである。本実験結果において, 統制靴条件と比較し, <i>la verita</i> 条件では上半身の上下方向に関連する動きが大きかったことから, アシストブルーバーによる, 靴底の “踏切の良さ” が, 歩行を補助した可能性があると考えられる。また, 有意な差は認められなかったが, 統制靴条件と比較し, <i>la verita</i> 条件では左右動揺量が小さかった。歩行は姿勢を安定させながら前進する動作である。 <i>la verita</i> 条件では歩行中の推進力を得られたことで左右の揺れが抑えられ, 歩行の安定性に寄与している可能性がある。一方で, 本研究では下肢の動作および歩行速度, 歩幅については計測がされていない。今後は体幹の動作とともに, 下肢の詳細な動作計測を行うことで, アシストブルーバーによる, 歩行補助効果についての発生機序を追求していく必要がある。</p> <p><a href="https://doi.org/10.5100/jje.57.1D1-3">https://doi.org/10.5100/jje.57.1D1-3</a></p>	

※無断転載禁止